

建設産業委員会会議録

平成27年7月3日（金）

午前 9時30分 開会

○成田吉毅委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。協議題1「閉会中の調査事項について」を議題といたします。昨日、皆さまからいろいろとご意見をいただきまして、半田市の観光戦略についてということで、観光というのはまちが潤うために平たく言えば銭儲けのためにやる戦略であるということ。それから半田市がそういうことで売らなければ人が来てお金を落とす、まちが潤う、観光はまちが潤うためにやる。そのためにどういう施策を打っていくのかということが委員全員の共通認識、目的であったと思います。それからその戦略がないのではないか。したがってその戦略をこの委員会で今年100%でなくてもいいので作っていいのではないか。観光は産業である。産業は観光でも成り立つ。観光だけ特化するものではないということ。観光戦略が甘いので上手くやっているところがどのようにやっているのか。どのような組織でどのように市が関わり、市がどのようにバックアップしているのか。そういったことを調査していく。その中で古いまちなみを整備して観光客を呼び込んでいるところ。どのようにまちを潤わせているのか。お金を落とさせているのか。そういうところを視察する。戦略的にやっていかないと観光客は来ないだろう。全国の事例を見ると古いまちなみを保存や活用しているところに成功事例がかなりあるだろう。そういうところを調査研究しながら人を呼んで、滞在時間をいかに増やして、どうやってお金を落とすしていくのかという方法を調査研究していくというような話でまとまったと思います。これを共通認識として調査研究するという事に皆さんご異議ありませんでしょうか。

【「異議なし」との声あり】

ご異議なしと認め、今年の建設産業委員会の調査テーマとしては「半田市の観光戦略について」に決定しました。よろしくお願いたします。

次に、協議題2「議員勉強会について」を議題といたします。昨日、新美委員のほうからお話しがありました。国の示した空家対策法について、半田市がどのようにやっていくのか。また空家バンクについてのご意見もありました。他にご意見等はありませんか。と申しますのは、今回の調査テーマはまちを潤すということでまちなみ保存、再生して潤っているところを調査していきますが、私としては空家対策法も勉強したいところですが、これは割と放置されている空家を積極的に壊すための法律だと思いますので、少しテーマとずれる部分もあると思いますので、委員の皆さまのご意見を賜りたいと思います。しばらく休憩いたします。

午前 9時34分 休憩

午前 9時37分 再開

○成田吉毅委員長

委員会を再開いたします。今ご意見がありました空家対策法ですが、議員勉強会は建設産業委員会の勉強会ではなく、議員全員の勉強会であること。そして建設産業委員会としてやらなければいけない内容と一方で空家対策法についてということをお勉強するこ

とで、より一層我々のやることに役に立つということも言えますので、これでやっていきたいと思いますがご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

ご異議なしと認めます。では空家対策法について、正副委員長で講師をあたりますが、当局も含め皆さまのほうでいい講師がありましたらお知らせいただくと有難いと思います。

○笠井市民経済部長

空家対策法という話ですので、どちらかというとなら建築や防災の観点が大きいのので、担当部局のほうへ私どものほうから聞いてはみますが。空家利用の話と空家対策法とは少し観点が違うので、必要があれば私どものほうでもどういった方がみえるか確認をしておきます。

○成田吉毅委員長

ありがとうございました。その辺りも委員よりも詳しいと思いますのでよろしく願いいたします。

○新美保博委員

基本的には建築課が窓口になってやるだろうが建築課と防災交通課と税務課が関わってくると思うので、建設部だけでなく総務部も関わってくるから、どこがやるか担当部局も考えなくてはいけない。税務課もわかっている人が来なければいけないというのがある。半田市は空家等の適正管理に関する条例というのがあるので、そのことが分かっている人に講師になってもらうとか。別に大学の先生や東京から探してこなければいけないということはない。このことが分かっている人がいれば説明してもらえばいい。ここに固定資産税のしおりの冊子があるが、これを見ればこれだけ上がるというのがすぐわかる。これを聞いて説明することと、ある程度のアウトラインに落とすことが大事。そう難しい話ではないはず。

○成田吉毅委員長

しばらく休憩いたします。

午前 9時41分 休憩

午前 9時45分 再開

○成田吉毅委員長

委員会を再開いたします。議員勉強会については、国の示した空家対策法についてとし議長へ提出いたしますのでよろしくお願いいたします。

次に協議題3「決算審査の資料請求について」を議題といたします。昨日お配りした資料の最後の1枚に削除した後のものと添付しています。委員の方から追加書類の要望がありませんが、これでよければこれでいきたいと思いますが、ご意見がありましたらお願いします。

○新美保博委員

項番3の(5)(6)(7)(8)は誰が作るのか。課長が作るのか。

○大山観光課長

そうなると考えます。

○成田吉毅委員長

しばらく休憩します。

午前 9時47分 休憩

午前10時 7分 再開

○成田吉毅委員長

委員会を再開します。建設産業委員会の決算審査の資料請求についてですが、項番3の(5)(6)(7)(8)は、削除することにご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

ご異議なしと認めます。では項番3の(5)(6)(7)(8)は削除いたします。他にありませんか。

【「なし」との声あり】

では、協議題4.「その他」に移ります。昨日の半田市産業・観光振興計画の質問の中でまだ質問されていない方が見えると思いますが、質問がありましたらお願いします。あと久世委員のほうから観光課としての戦略プランとか何が足りないかとか、トータルコーディネートする人がいないから問題なのかとか、あと観光課に権限がないのが問題なのかなどの質問がありましたでしょうか。

○山田清一副委員長

半田市産業・観光振興計画、観光と産業は車の両輪であるということを再認識したわけですが、昨日の話の中で、何のためというところはすっきりと落ちるんですが、もう一回整理したいと思うのが誰のために何のために観光をするのかというところ。誰のためというところはなかなか市民の皆さまにとっては見えにくい、感じにくい点だと思います。産業・観光振興計画の視点で誰のためにやるんだろうという部分をお伺いしたいと思います。

○笠井市民経済部長

非常に哲学的な話になりますが、誰のためと言えども間違いなく市民のためです。市民というには、住んでいる方もいらっしゃるし、商業者の方もみえると思っています。まず商業者、事業者の方も含めて住んでいらっしゃる方皆さんが観光によって幸せにならなければ観光は成り立たない、そうあるべきだと思っています。

○山田清一副委員長

観光、その先には地域経済活性化につながっていて、産業も振興していくという流れですが。その視点で言うと半田市にとっては、赤レンガもいよいよオープンする中で、これまでも看板付けたり、ここ数年非常に進んだところですが、次の展開というところで計画を作って、この委員会で進めていくというところ。現時点で何が足りないのか。優先的には何が足りないのか。最優先すべきものを示していただけると有難いと思います。

○笠井市民経済部長

ちょっと私見になります。いろんなレベルがありますのでそれを全部説明すると長くなると思いますが、先ほど市民の幸福のためという話をさせていただきましたが、今まで足りなかったのは、観光の目的というのは地域経済の活性化、そして交流人口の増加、あとは市民の皆さまが観光によって自分のまちに愛着を持ってもらうというのが大きな目標かと思っています。そういった意味で考えますと、今までやってきた観光施策というの

はどちらかというとPR中心でした。地域の活性化、これは経済活動ということに置き換えてもいいと思いますが、そういった取り組みの視点が足りなかったのではないかと一つは思っています。これが大きな欠けている部分だと私は思っています。もう一つレベルを下げて話をしますと、例えばインフォメーションの不足。これは案内板や外国人向けの紹介するものがないとか。最近、中国の方が半田にお泊りになっています。これは名古屋市内の宿泊費が高止まりしているということがあって、セントレアで降りられた団体さんが半田に随分と泊まっていますが、実際に半田市内で観光していただくのが一番いいのですが泊まったら朝すぐ出て行ってしまふ。ただホテルに入って、その辺の買回り品を実際に入れていってらっしゃるんですね。多いのはドラッグストアによく行っているという話は聞いていますが、例えばそういったときに案内をするものがない。夜、ナイトタイムを楽しんでもらうガイドブックみたいなものもない。そういった視点が今まで欠けているのではないかと思っています。もう一つは市内にはいくつかの観光資源はまだあると思っています。これは山車・蔵・南吉・赤レンガ以外にも小さいもの、産業で言いますといちご狩りやトマト栽培、フルーツトマトなどかなり質の高いものがあり、東京や銀座などでよく売れているという話も聞いていますので、そういったものも地元の者でもご存知ない。地元の方もそれを手に入れる場所がないということもありますので、そういったものもPRして観光の魅力の一つとして活用していくべきではないかという思いはあります。思いつくまま申し上げましたが私としてはそういうふうを考えています。

○山田清一副委員長

先ほど中国人の方がいらっしゃっているという話を聞きましたが、そういうものをマンパワーで対応しようとするのが難しいと思う。今、全国的にみるとアプリケーションを通じて対応しているところが結構あるようです。それにはWi-Fiの整備など半田にすればこういうアプリがあつて海外の方はこれをみればいろんなところで対応できますよみたいな感じになっていくと思う。

○笠井市民経済部長

今、Wi-Fiの話がでましたが、実は外国人もそうですが国内の観光客にしても観光地にWi-Fi環境の整備は必須と言われていています。私どもも今Wi-Fi整備ができないかということで地元の自販機のベンダーともそれができないかと話をさせていただいているところです。それは我々としては必要なツールの一つだと認識しています。

○成田吉毅委員長

他にありませんか。

○竹内功治委員

1点だけお願いします。今いろいろ戦略をお伺いして、今までも戦略を組んできたのではないかと。そういう意味でいうとなぜ今まで戦略が甘い感じになっているのか。教えてください。

○笠井市民経済部長

これにはいろいろな要因があるかと思いますが、昨日の議論の中にもありましたが、やはりコーディネーターがいなかったのではないかと思っています。我々としてはそういった機能の一つを観光協会に求めているんですが、役所の中でもそうですし、そうい

った声が小さかったのかなという思いは持っています。

○竹内功治委員

例えばこの委員会がコーディネーターなど具体的な案ができれば、観光は半田市の中で重要視されてきているので、今後しっかり対応できる考えはあるということでしょうか。

○笠井市民経済部長

ただちに対応できるかどうかは次元の違う話だと思います。投資に見合うだけの回収ができるかと判断すれば投資します。

○成田吉毅委員長

他にありませんか。

○久世孝宏委員

皆さんいろいろ聞いていただいて、これを観光振興計画に重なる質問になるかもしれませんが足りなかったものは何だと、部長や課長はどう感じられていますか。実際に紺屋海道を見て、いろいろ感じるころはありましたが、回遊性を高める周遊ルートの整備というのは施策の中に具体的にいわれてはいたんです。その中でそこにこだわらず、これに何が足りないか、経済的な地域にお金を落とすという観点が抜けているというならそれでいいですが、この振興計画に抜けていると思う部分を私見でいいですので、何か感じていることが教えてほしいです。

○笠井市民経済部長

私見で申し上げます。これは産業・観光振興計画だけではなくて他の計画にも言えると思いますが、戦略性に欠けると思っています。基本理念や基本的な考え方、基本計画の部分については、いろいろな方のご意見を伺いながらまとめていますが、それを実行するためのプログラム、戦略性に欠けていると思います。

○久世孝宏委員

要するに、ここに回遊性を高める周遊ルートの整備と書いてあるが、書いてあるだけという話。少し細かい話になりますが、実際にお金を落とすとなると、いろんな落とし方がある中で「回遊性を高める」となっていたが、何時間以上そこに滞在するとお金を落とす確率が高くなるとか歩いて回るといのもあったと思いますが、それは具体的に何時間以上滞在させようとしているかとか、何時間以上歩かせようとしているかとか、何か数値があれば知りたいです。

○大山観光課長

具体的な時間ははっきり覚えていませんが、基本的には半日以上という形で滞在していただければ当然そこで飲食が発生しますので、それぐらいは滞在していただくことを目標にすると。そうすると基本的には1か所では滞在できませんので当然のことながら2か所を移動するなどする中で回遊していただくという施策を打ち出していくということになります。

○久世孝宏委員

わかりました。

○成田吉毅委員長

他に何かありませんか。

○新美保博委員

半田市産業・観光振興計画は足が地についての計画であるのかどうか。先ほど部長が言われたような答えと一緒にと思うがやはり聞きたいので。なぜ聞くかという地についていないと思うので、本当に地に足がついた計画なのかというところ。感想を聞きます。

○笠井市民経済部長

真摯に検討してまとめたものだと思っています。ただそれを具体的に実行する道筋にやや弱さを感じるとしています。

○新美保博委員

観光の定義というのを建設産業委員会のどこかで落として、考え方はたくさんあると思うので、でも今年建設産業委員会がその観光の定義というものを、いくつかある中で今回はこの定義にスポットライトを当てて調査研究しますというところを作り上げないといけないと思う中で、観光課が持っている定義とは何か。観光とは何か。

○笠井市民経済部長

先にお詫びをしなければいけません、私自身が観光課とあまり強く詳しく打合せをしていないので私の私見を含めて申し上げますが、今私が考えているのは、観光は地域経済の活性化。目標としては。早い話がお金儲けと交流人口の拡大と思っています。交流人口の拡大というのは、外からたくさんの方が半田に来ていただけること。それによってお金も落ちるだろういろいろな情報も入ってくる。またこちらの情報もそこで拡散していく。大きくはこの意見だと私は思っています。

○新美保博委員

これだけではないように思う。それを実現するには、常滑市はコストコやめんたいパークがあって、今度イオンが来て。半田と常滑の違いがあるのか。やはり一生懸命頑張っているところは、土地もそれなりに作るし誘致する。そこが半田市には欠けていると思うが。裕福なまちであるという気はないが、そのために4時間滞在させるときに駐車料金は例えば車で来たときにどうするか。半田の場合だとまるまるちゃんと半日分とる。例えば半日いたらあとの駐車料金はサービスすると気安く車で来ることができるなど、そういう条件を半田は作っていない。どこまで行政がそこに助成できるかというところ。

○笠井市民経済部長

先ほど戦略性が足りないといったのは、まさにそこだと思っています。一例として駐車料金の話をさせていただきましたが、滞在時間を延ばしてもらおうと思うのであれば車で見えた方に関しては、例えば半日無料券を観光施設でお渡しするとか、それは戦略だと思います。そういった視点が欠けているのではないかという思いはあります。それはこれから考えていきたいと思っています。

○新美保博委員

観光計画と現場があっているかというところとあっていないような気がする。そこに魂を入れないと。何を入れないといけないかというのは多分わかっていると思う。これから建設産業委員会の中で本当の身のある計画に作り上げてほしいという思いがある中で質問をしました。以上です。

○成田吉毅委員長

他にありませんか。ないようですので次の「その他」に移ります。

過日、委員がメール等でいただきました赤レンガの専決処分について当局からご説明をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

○笠井市民経済部長

これに関しましては、先日6月29日付けで私どものほうから議長へご報告をさせていただきメールで皆さまの元に配信をされたと同っております。半田赤レンガ建物整備工事にかかります契約変更を6月29日付けで行いました。この契約変更の中身でございますがこれについてはこれまで耐震補強をするということで赤レンガ建物の壁面に鉄筋挿入工法を使っており、グラウトと呼ばれるコンクリートのようなものを挿入する工事を行ってまいりました。工事が完了するにあたり最終的にグラウトの挿入量が減少であったということと、それに代わって建物2階部分の床面にかなり厚いコンクリートが張られていて強度的にもそれをはつて処理をすべきだということでその撤去処理を行いました。またハーフティンバー部分の屋根の部分。屋根に関しては張り替えるということで当初予定をしていましたが屋根裏の板を剥がしてみたら張りの部分がかなり腐食をしておりまして一部落ちているような状況がありましたのでその木造の腐朽処理の追加工事が必要となりました。それに伴いまして地方自治法の180条に基づく市長の専決の範囲内ということで契約金額の5%以内でありましたので333,000円の減額をする変更契約を行ったものでございます。なお市長の専決につきましては議会による特に指定したものについて処分をすることが可能ということで、契約金額の5%以内800万円を限度として指定をいただいておりますので、今回は5%以内の333,000円ということでありますので専決処分をさせていただきました。なお変更契約の内容ですが工事名、工事場所、工期、請負者については変更はございませんが、契約金額が変更前18億5,247万円が18億5,213万7,360円となったものでございます。以上でございます。

○成田吉毅委員長

これについては7月14日の全員協議会で説明があるということですが、建設産業委員会の所管の部分でありますのでここで説明をいただきました。これについて質疑を求めするのは全員協議会でもいいと思っておりますが、ここで聞いておきたいことがございましたらご質疑をお願いいたします。

○久世孝宏委員

2階床コンクリートはつりというのは、2階の床ということは見えていたような気がしますがなぜ補正でやらなければいけないということになったのか。これだけ気になります。というのもグラウトの量がいると言っていたが、これだけ見れば本来増やさなくてもよかつたし、金額だけみれば当初の想定量以内にも納まっている。そうすると本来補正かけなくてはいけなかったものをわざわざやらなくてもいいのにやって5%以内に納めたというふうにもみえてしまうわけです。額が大きいのはこの3,300万円ですので、しかもぱっとみれば最初から見えていたのではないかというものに対して補正をかけなくてはいけなかった理由だけここで聞いておきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

○大山観光課長

2階の床については基本的に1階の屋根にアーチがあり、これをまず2階の床をはつて要は横軸方向の強度が非常に弱いということですので、2階の床に鉄筋を入れて建

物をもたせるという工事を行うという予定で始めました。1階の屋根のアーチの部分を出してその上に鉄筋を張ってコンクリートを張るという予定で行った工事ですが、2階の床をはつり始めたら、いつまでたってもアーチが出てこないということによってようやくわかったということになります。基本的に当初の設計のときに建物すべての測量をかければ当然1階の屋根と2階の床の部分の差が大きいというのはわかったのですが、そこまでの費用を当初にはかけなかったということの中で現場に入って初めてわかったという内容の工事ということになります。グラウトの挿入量につきましては当初やり始めた場所はたまたま空域等が多く、これが全体に広がっているのではないかとということが想定され変更したということになりますが、実際他の部分をやり始めたらもう少し空域が少なかったということと、施工方法についても実は日本でも類を見ない、やったことがない工事であり、やっていくうちにいろんなロスをいかに軽減できるかという方法を。例えば単純な話ですが少し遅めに打つとかもう少し早めに固まるセメントを打つとか、いろんなことを試しながら現場で試行錯誤しながらやった結果がこれだけの減額に結びついたということでもあります。

○成田吉毅委員長

他にありませんか。

○新美保博委員

全員協議会で聞こうと思いますが資料を変えてください。当初が載っていないのでこれでは変更事項がわからない。当初に何があって、12月補正の追加工事があって。今回はやりませんでしたと。

○笠井市民経済部長

やったのですが見込みよりもグラウトの量が少なくて済んだということと、工法の工夫によってコンクリートの使用量が少なくて済んだということになります。所定の工事は行っております。

○新美保博委員

全員協議会で聞くような話ではないと思うので、説明したときにはこの穴をあけた。穴をあけた量がこれだけだから4,300万円増えますよということ。入れていないわけじゃないでしょう。

○笠井市民経済部長

入れています。

○新美保博委員

入れているのになぜ減額になるのか。それがよくわからない。物を変えたのか。

○笠井市民経済部長

工事は企画部のほうでやっていますので企画から聞いた話で申し訳ありませんが、最初の頃はグラウトを挿入するときになかなかグラウトが入っていかないということでもかなり粘度の低いものを使ったらしいです。そうすると先ほど空域という言い方をしましたが隙間があって外に流れ出してくるということで、想定していたものよりもたくさんのグラウトが必要という判断だったようです。容積に対して係数として1.2倍ぐらいのグラウト量が必要という判断でやったものがもう少し必要だということで補正をさせていただいた。実際にやってみたところある程度作業の効率もあがり、どこの部分をおさ

えればグラウト量が少なくて済むということが清水建設のほうでもわかってきたので、できるだけグラウトを使わずに施工できるように工夫をしたところ最終的にグラウト量が減ったということと、当初粘度の低いグラウトを使わないとしっかりと挿入できないということでしたが、比較的コストの安い粘度の高いものを使っても挿入ができるという技術が確立してきたのでそちらに切り替えていった結果、金額的に5,000万円ほど落ちたと聞いています。

○新美保博委員

全員協議会で聞きますが、結局はここで市民経済部にふられてしまったからこういうことになっている。市民経済部が答えることではない。企画がずっとやってきてこの工事は企画が始末しなくてはいけないということが一つ。それと問題はマイナスの333,000円だからという、本当にそれでいいのか。業者のいいなりではないのか。グラウトしたら増えるかもしれません。だから4,000万円増やすために補正をした。そうしたらそこまでやらずにできました。だったら最初からやっておけという話。いやそれはやってみなければわからないことだった。これはマイナスだったからよかったがプラスだったらどうするのか。逆転したらどうなるのか。グラウトはマイナス5,000万円になっている。もしもプラスになっていたらどうするのか。その管理は誰がやっているのか。その責任はどうとるのか。悪い言い方をすると今まで通りお金を使えばいいじゃないか。ある意味良心的かもしれないが、本当だったらマイナス1億円ぐらいあったかもしれない。マイナス5,000万円ぐらいにしておいてあとの5,000万円は使ってしまおうという話だったかもしれない。悪い言い方をすると。誰がその管理をするのか。市民経済部に所管を渡したから市民経済部なんて、市民経済部も困るよね。わかっていないんだから。こんないい加減なことを天下の清水建設がするのかという思いがある。それを管理・監督できない半田市はこれでいいのかと思う。それと6月29日に専決をした。6月26日は定例会最終日だよ。それをなぜ29日に専決して今回報告をしなくてはいけないのか。26日の最終日に報告できないことはない。あえて変更契約を29日にした理由は何か。

○笠井市民経済部長

6月29日となった理由ですが、実は6月25日に工事の完了検査を行っております。6月25日で最終的な追加工事の指示やそこで工事の確定をしましたので、その段階で初めて工事内容確定をしたということで29日付けの契約変更になったということであります。

○新美保博委員

これが本当であれば契約変更が29日でも別に問題ない。専決の範疇だから。だけど25日にそれが確定してこういうことが起きることが分かっている、26日に報告事項としてはありではないのかと思うが。

○笠井市民経済部長

ご指摘のとおりだと思います。そこで報告をしなかったのは私どものミスであります。申し訳ありませんでした。

○新美保博委員

ミスではなくて意図がそこにはなかったのか。

○笠井市民経済部長

私としては、意図は持っておりません。

○新美保博委員

市民経済部長には分からない意図。目に見えない意図があったとすると。そう思わないか。全員協議会で聞けるならそこで聞きます。

○成田吉毅委員長

これに関しては、もともとは企画が始めたことで企画が最初の工事内容など全て知っているわけで、最初の補正を組んだのも企画だったので、ちょっと市民経済部には酷な感じかなと思いますし、全員協議会でまた質問いたします。

○新美保博委員

資料だけは作っておいてください。当初から1回目の変更、項目から金額。それから2回目になると思うが最終計画がこうだというものを作っておいてください。

○笠井市民経済部長

分かりました。

○成田吉毅委員長

では資料の準備をよろしく願います。では「その他」の中で、事業評価の選定日を決めたいと思います。予定としては8月末になります。しばらく休憩いたします。

午前10時44分 休憩

午前10時46分 再開

○成田吉毅委員長

委員会を再開します。事業評価の事業選定する分科会は8月25日（火）全員協議会后といたしますがこれにご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

ではそのようにさせていただきます。次の委員会ですが、視察前の勉強会になると思いますので、視察日の候補といえますか、

○新美保博委員

視察の予定はいつになっているか。

○成田吉毅委員長

視察の候補日が3つありまして、今のところ1泊2日か2泊3日かわかりませんが、行先の都合ですが1泊2日になるかと思っておりますが、先回の委員会で3つ候補日を決めましたので申し上げますと、10月19～21日、10月29～30日、11月18～20日、その3候補となっております。しばらく休憩いたします。

午前10時48分 休憩

午前10時54分 再開

○成田吉毅委員長

委員会を再開いたします。では、当初の3候補で決めたいと思います。行先については正副で話し合っ、千葉県香取市佐原と埼玉県川越市の方向で考えております。先方とのやり取りで、まずは最初に申し上げた10月と11月で先方が良とするところで視察日をなるべく早いところで決めたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」との声あり】

他に何かありましたら願います。

【「なし」との声あり】

以上で本日予定いたしました議事はすべて終了いたしました。本日の委員会はこれにて閉会いたします。

午前10時55分 閉会